

御牧八幡宮みまき はちまんぐう 〔御牧村にあり。祭神五座、八幡、神功皇后、若宮、武内臣、春日。土人生土神とす、例祭八月十五日〕

玉田森たまだのもり 〔同所の森をいふ〕

御園原みその、はら 〔島田村しまだの巽五町ばかりにあり。いにしへ天子の御薬園の地なる歟。是より南の方諸村に薬種を作る事今に

於て多し〕

淀堤よどつゝみ 〔淀小橋の北爪より伏見三栖みすに至る道なり。行程一里、秀吉公の御時作れるなり〕

医王山善福寺いおうさんぜんぷくじ 〔上三栖かみさんすにあり、東光院とうくわうと号す、初は行基菩薩の開基なり。本尊は薬師仏、坐像二尺余、十二神将共に行基の作。脇土に二天を容置す。後世禅宗となる〕

天武天皇社てんむてんわうの 〔下三栖しもさんすにあり。祭神天武帝てんむてい、此地に御鎮坐の年記詳ならず、土人生土神とす。神輿一基、例祭は九月十六日の夜にして、祭礼には大松明を灯し神輿のわたりあり、いにしへよりの例なりとぞ〕

伏見ふし 〔華路みやこより行程二里、日本紀には俯見ふしと書り、和歌には呉竹ふしのふし見の里と詠り、又伏水と書事は、宇治河の

流水此所にて伏し湛るのゆへならん、後世都て伏見と書す。いにしへは民村にして九郷あり。

船戸ふなと村、森もり村、久米くめ村、法安はふあん寺村、石井いしゐ村、北尾きたを村、北内きたを村、山村、即成そくしやう院村、等なり。文祿三年秀吉ひでよし公御在城より町

小路建続きて、西国より東国北国へ赴く喉口の地となる、町数二百六十余町、舎屋六千二百余軒となり〕

伏見皇居ふしみのくわうきよ 〔旧跡詳ならず。一説御香宮の東南の地なりといふ。九十一代の帝伏見ふしみの院こゝに仙居し給ふ、持明ちみやう院と号

す〕

八月十五日伏見に御幸ありて、月の歌よまさせ給ひけるつるでに

風雅集 軒近き松原山の秋風にゆふ暮きよく月出にけり 伏見院

松原山 〔秀吉ひでよし公御在城の本丸の地なり、今は古松繁茂し蓊鬱として日を蔽ふの所なり〕

弘雪堀 〔城山の内にあり、岡野弘雪が旧跡なり。惣じて城山しろやま及び伏見ふしの町小路ならびに橋等の名は、旧号を失して、

秀吉公の御時諸侯第の名をとりて所名の字となしぬ〕

宇治見山龍雲寺

〔城山の内字三河屋敷にあり。天台宗にして、本尊觀世音は常憲院殿の御念持仏にして、石川

備中守拜領し、当寺に安置す。此寺初は敦賀町にあり、正徳年中珍恭和尚中興して、此寺をひらく所なり。大師堂仏殿の東にあり、元三大師自作の像を安置す〕

桃山天満宮

〔龍雲寺の西にあり。祭神渡唐天神の影像を鎮め奉る、明徳の頃沙門月溪靈夢を蒙り、其後応永元年

に神影を同門の僧忠菴より授り、龍幡山藏光菴の鎮守とす。文祿三年伏見城を築給ふ時、藏光庵は嵯峨臨川寺のひがしにうつす、天神の御社はこゝに残りて、俗に山の天神と称す。例祭は六月廿五日〕

護国山開元寺

〔江戸町にあり、禪宗にして黄檗山大鵬和尚の草創なり。本尊は子安地藏尊を安置す、東山院等身

の尊像にして、紀州高野山木食恵昌上人の開眼なり。いにしへは大手筋善導寺に安置す、安産の靈瑞多し、故に子安祈禱の秘符を出す〕

立売

〔桃山の南、東西に通る街をいふ。此地南は低くして北の方高し、故に陽氣地中に周て諸木の花咲事早し。此

所の民家多く、諸草を山畑に作り、花を咲せ日毎に都の市に出して、業とす、是風土の奇といひつべし〕